

令和 6 年度 研究所公募型委託研究 採択結果

国総研アドバイザー会議でのご意見を踏まえた国総研委託研究審査会※による審査の結果、採択された研究（研究テーマ名と応募時の提案概要等）は以下の通り。

なお、本件は 1 つの研究テーマに対し 2 者を選定する公募であった。

研究テーマ名と提案概要		研究代表者名 (機関 五十音順)
研究 テーマ	流域デジタルツインを用いた流域治水の自分事化支援ツールに関する 研究開発（その 1）	加藤 博一 (国立大学法人 奈良先端科学技術 大学院大学)
提案 概要	関係者間での流域治水の議論を活性化できる XR システム(複数人のユーザーが、机の上に表示されたミニチュアの仮想世界を観察できる AR 環境と、実物大の仮想世界を体験できる VR 環境を行き来できる)を提案する。 ① 課題分析・設定:住民等が流域治水を自分事化するために効果的なコンテンツ要件と機能要件を分析・設定。プロトタイプの実験を含むワークショップを実際のユーザーとなりうる地域住民を対象に実施し、そこから課題を抽出、それを参考にプロトタイプを改良するといった活動を 3 回程度繰り返す。 ② 既存技術の活用可能性調査・選定:既存技術の調査と同時に、XR やユーザインタフェースの研究分野の最先端技術の調査も実施。 ③ 支援ツールの試作・実用性確認:実際にプロトタイプシステムを構築したうえで、地域住民をユーザーとする評価実験を実施することで、提案システムの有効性を検証。	
研究 テーマ	流域デジタルツインを用いた流域治水の自分事化支援ツールに関する 研究開発（その 2）	飯田 進史 (バシフィック コンサルタンツ 株式会社)
提案 概要	以下の 2 点に着眼して研究を実施する。 ・ 地域の歴史や将来影響を紐解き、時空間的な現在地を把握 ・ 見えないところで起きている洪水や浸水の切迫性を身の丈で把握 ① 課題分析・設定:近年洪水経験の少ない地域を選定し、過去、現在、将来の河川・地表氾濫モデルを作成、3 次元表示を活用した住民・企業ヒアリングで「自分事化」の課題を特定。 ② 既存技術の活用可能性調査・選定:課題解決に有効な異分野を含む既存技術について、ユーザー設定と期待する効果、コスト、使いやすさ、デジタルテストベッドとの連動性などの評価指標を設定し、調査・選定。 ③ 支援ツールの試作・実用性確認:UX デザインに基づき、リスク把握から立地選択・住まい方、避難・水防の行動変容に繋がる効果量の測定手法を開発し、対象地区でのユーザビリティテストで定量評価。	

※ 国総研委託研究審査会は所長を会長として実施する委託研究の内容・委託先等を審査するものである。